

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
研究交流報告書

報告日：2019年4月4日

招聘者氏名	岡田順子・山内知也
被招聘者氏名	Yvette Ngono-Ravache イベッタ・ンゴノラバシェ
被招聘者 所属機関・職位	イオン物質フォトニクス研究センター CIMAP 研究員
<p>2019年3月8日から3月29日の日程で旅行者であるイベッタ・ンゴノラバシェ博士に来学してもらった（旅程はフランス国内、特にパリ近郊、での混乱を避けるために土曜日を回避している）。</p> <p>この招聘は、神戸大学男女共同参画室が主催する「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」国際人事交流（招聘）プログラムに基づいている。</p> <p>11日からの週は18日に開催するセミナーの内容について議論を継続的に行った。後に述べる共著論文についての議論も行った。</p> <p>3月18日に神戸大学深江キャンパス総合学術交流棟の梅木Yホールにおいてセミナーを開催した。イベッタ博士の講演タイトルは” Polymer under ionizing radiations at CIMAT : Why and How?” であり、フランス国立重イオン加速研究所GANILのイオン物質フォトニクス研究センターCIMAPでの研究とその施設を紹介するものであったが、特にお願いをして、CIMAPを含むフランスの企業、研究機関、大学における女性研究者の活躍の様子を最新の統計を使って紹介してもらった。このセミナーには教員6名（うち2名が女性）と大阪大学の院生を含む8名の院生の参加があった。女性の参加は多くはなかったが、男女共同参画やダイバーシティについての教育はまず男性や経営層に対して行うことが重要であることに指摘は講演の中でもあった。翌19日には海事科学研究科の教授会で他の招聘研究者とともに教授会メンバーに対して挨拶を行った。招待者（山内）はイベッタ博士と” Role of molecular vibrations and movements on the generation of CO₂ gas and OH groups in PADC irradiated with C and O ions” と題する共著論文を執筆中であり、来学期間中にわたって細かな表現も含めて議論を繰り返した。26日には、筆頭著者である楠本多聞博士研究員（量子科学技術研究開発機構）も参加し最終的な意見交換を行った。この論文はイベッタ博士が管理するCIMAP内の実験設備を利用した実験に基づいており、次年度とそれ以降の共同研究の進め方についても議論を行った。</p> <p>27日はANAクラウンホテル神戸で開催された「ダイバーシティフォーラム キックオフシンポジウム」に来賓として出席し、UNESCOのSaniye Gülser Corat 氏らの講演を聞いた。</p> <p>28日は日本国内の他の研究機関を巻き込んだ共同研究の進め方について議論を行った。当研究室が保有する顕微赤外を用いて高分子中の酸化反応について共同研究を行うプログラムが進むことになった。</p>	

その後の研究交流の進捗状況
(2020年2月現在)

招聘したイベッテ・ンゴノラバシェ博士には、私がフランスに留学した当時に実験研究のために、博士が所属する研究所の大型重イオン加速器を活用させていただいた。この招聘に前後して、私が指導していた博士後期課程院生の論文審査にも協力していただいたが、その院生が博士の施設で研究を行わせてもらうことができ、その成果を共著論文として発表することができた (doi.org/10.1016/j.polydegradstab.2019.04.007)。これは極低温における高分子材料中のイオン照射効果に関するものであるが、世界的に見ても新しい知見であり、高分子から二酸化炭素が発生するその現場を捉えた物になることが期待されている。国際会議 (<https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/IRaP2020/index.html>) が、奈良で次年度に開催されるが、イベッタ博士はその組織委員会メンバーであり、ここに共同研究の成果を発表する予定である。